

臨時貝塚市史編纂部編

貝塚市史

本市史の計画は既に昭和一五、六年頃から始まり今日に至るまで広く史料採訪を行つてきたと聞く。広島大学の福尾猛市郎教授を中心に、岸本留雄・藤本篤の両氏、更には貝塚市役所、市民の協力のもとに完成した三巻にわたる大部な市史である。ここではとくに最近発行された第三巻の史料篇に限つて主として紹介したい。

この巻の構成は三部にわかれ、第一部編年史料、第二部諸記録と最後に横書きの貝塚市史年表となつている。

第一部は「大日本史料」のように逐年原史料を採録し、時期は日本書紀崇峻天皇期から明治二二年にわたつている。とりわけ史料的に恵まれているのは、中世及び近世である。中世では高野山領の泉州日根郡近木庄関係の史料が多く収められてこの庄園の個別研究を助けることになると思われる。近世は質量ともに最も豊富で、ざつとみた範囲だけでも四〇軒近くの文書所蔵者の名がうかがえ、蒐集の緻密さを十分に示している。中でも貝塚願

泉寺ト半家と畠中の要家の二家は、近世初頭の稀有な史料を初め最も数多く、泉州地方の研究に裨益するところまことに大である。内容も寺内町としての貝塚の特異性、岸和田藩政(貢租・産業)等々広範囲にわたつている。

第二部は、長文の史料を取めている。文禄三年の近木庄窪田村検地帳を初め、殆ど史料は煩をいとわず全文をのせるという態度をとつている。とくに寛永二一年の畠中村算用帳などは、近来当地方の近世初頭の算用帳の分析が行われていることからみて、すぐさま利用しうるものと思われる。また和泉一國高付名所誌(年代不明)や万記録(卜半了観記、延享三)はそれぞれ泉州全般及び貝塚の明細を示したもので、当地方岸和田藩作成の村明細帳が未発見の現在、広く活用されることと思う。最後の市史年表(八〇頁)は第一巻から第三巻までの叙述を整理したもので、まことに便宜を得たものといえよう。

全体として感じたことを二、三あげてみると、第一、二部は活字6号二段でぎつしりと総頁六八頁に及んでいる。このため載録史料の範囲が広まり、種々の分野にわたるとともに貝塚市以外の地方の関係史料ものせうる

という利点をもつている。読みごたえのあるものであり、とくに第一部は原史料に対してゴチで解説を付している点も行届いたものである。

史料蒐集も二〇年に及んで、ここに載録されたものには、すでに散佚を伝えられるものや深く蔵されていて容易に閲覧調査の機を得ないものなどがあつて、近時盛況を伝えられる泉州地方の研究に利するところ大である。また第三巻をとくに安価で広く頒売されたことはとくに利用者の感謝するところである。

以上蕪雑な紹介によつて本書の価値を損ずることをおそれるが、長年月にわたつた調査の労に心から感謝して筆をおきたい。(第一巻A5版本文七七八頁 昭和三〇年三月発行 第二巻A5版八六四頁 昭和三二年三月発行 第三巻(史料)本文六六九頁年表八〇頁 昭和三三年三月 大阪府貝塚市役所発行) (酒井 一)

高田市史編纂委員会編

高田市史

越後の高田について、われわれはいくつかの共通の知識をもつている。旧城下町として